

最後だとわかっていたら

先日、あるテレビ番組で「最後だとわかっていたら」という詩が紹介されました。作者はノーマ・コーネット・マレックというアメリカ人女性で、亡くなった我が子を偲んで書かれた詩です。

彼女は二児の母親でしたが、離婚によって、二人の子供を強引に夫に連れ去られてしまいます。（親権は彼女にありました）

警察の協力を得て懸命に子供の行方を捜すのですが、消息をつかめぬまま時間だけが流れていきました。

そうして二年の歳月が過ぎたある日、長男サムエル（10）の訃報が彼女の元に届きます。それは、川で溺れている子供を助けようとして自分も犠牲になるという痛ましい事故でした。

彼女は深い悲しみを抱えたまま、残された二男を引き取り二人で暮らし始めるのですが、亡くなったサムエルのことは決して忘れることはありませんでした。

母として我が子に伝えたかったけれども伝えられなかった思いや言葉。彼女はそれを一篇の詩に書き上げ、世に発表しました。少し長い詩ですので、一部省略して紹介します。

—最後だとわかっていたら—
ノーマ・コーネット・マレック
訳・佐川睦

あなたが眠りにつくのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは もっとちゃんとカバーをかけて
神様にその魂を守ってくださるよう祈っただろう

あなたがドアを出て行くのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは あなたを抱きしめて キスをして
そしてまたもう一度呼び寄せて抱きしめただろう
あなたが喜びに満ちた声をあげるのを聞くのが
最後だとわかっていたら
わたしは その一部始終をビデオにとって
毎日繰り返し見ただろう

あなたは言わなくても
分かってくれていたかもしれないけれど
最後だとわかっていたら
一言だけでもいい…「あなたを愛している」と
わたしは 伝えたい

たしかにいつも明日はやってくる
でももしそれがわたしの勘違いで
今日で全てが終わるのだとしたら
わたしは 今日
どんなにあなたを愛しているか 伝えたい

そして わたしたちは 忘れないようにしたい

若い人にも 年老いた人にも
明日は誰にも約束されていないのだということを
愛する人を抱きしめられるのは
今日が最後になるかもしれないことを

明日が来るのを待っているなら
今日でいいはず
もし明日が来ないとしたら
あなたは今日を後悔するだろうから

(中略)

「ごめんね」や「許してね」や
「ありがとう」や「気にしないでね」を
伝える時を持つ
そうすれば もし明日が来ないとしても
あなたは今日を後悔しないだろうから

今は亡き我が子を愛し続ける母親の切ない思いが読む者の胸を打ちます。

この詩は一九八九年に発表されましたが、その十五年後（二〇〇四年）、作者はガンのため亡くなります。六十四歳でした。

人は誰しも愛する人を失った時、どうしようもない深い悲しみに襲われます。そしてその人への思いが強ければ強いほど「あれもしてあげればよかった」「こうも出来たはずだ」という後悔の念に苦しめられます。

そうした時、残された者にとって最も大事なことは、愛する人の死を無駄にしないためにはどうすればいいのか、それを尋ねていくことだと思えます。

彼女は詩の中で、

「明日は誰にも約束されていません。もしこれが最後だとしたら・・・そんな気持ちで、どうか愛する人にその愛を伝えてあげてください。今を後悔しないために」と、語っているように、彼女が見出した答えは「いま、このひと時を悔いなく生きる」ということでした。

これは、仏教で説く「一期一会」という人生観に大変近いものがあります。

一期一会とは「この出会いは生涯一度の出会いと心得て、今を、ここを、このひと時を、懸命に尽くす」ということです。

こうしてみますと、私たちが求める世界は、洋の東西を問わず相通じるものがあります。

そうして忘れてならないことは、彼女にこのような生き方を目覚めさせたのは、他でもない、先立つ我が子だということです。

さらに言えば、我が子の「いのちの願い」が、残された母親の心を目覚めさせたのです。

その「いのちの願い」をはっきりと確信できた時、我が子の死は無駄ではなかったと、心の底からうなづくことが出来るようになるのです。

そのことを思えば、先立つ人は、まさに、善知識^{ぜんちしき}（人生の善き師）であります。

平成19年11月 「光明寺だより53号」より